

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	平成25年6月6日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JivogyoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 7 月 22 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさとのモットーである「ファミリー・笑顔」で日々接している。行事も様々で、夏祭り・敬老会・クリスマス・ピクニック・餅つき等があり、楽しんでいる。また日曜日には、ドライブに出掛けしている。広大な土地と、自然豊かな場所で、散歩も最適である。また火災・地震時避難訓練にも力を入れて実施している。お風呂は、榊原温泉の湯を利用している。職員全員が、それぞれの個性を活かしながら、アットホームな環境作りにも力を注いでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺には森林浴ができたり、花の公園があり自然に恵まれた環境となっている。それを活かしたケアとして散歩やテラスでの食事をよく実施しており、そのため利用者の平均年齢が89歳と思えないほど身体機能が高い。また 職員の異動がほとんどなく、安定した職員体制となっている。そのため認知症ケアにとって必須である「馴染みの関係」が継続されており、利用者や家族の安心感に繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふるさとファミリー・笑顔」が現場の理念である。良い雰囲気保てるよう努めている。	事業所独自の理念は、3年前に職員らと共に作ったものである。笑顔をモットーにし、家族の気持ちで利用者と接しており、理念がケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは主に管理者が行っているが、夏祭りや餅つき等の行事・普段の散歩時にしている。	地域住民らと一緒に年3回草刈作業に参加している。また法人主催の夏祭り等の行事には、多くの住民と交流している。近隣の幼稚園園児の慰問は、利用者にとって楽しみの一つである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議の際、認知症についての説明を求められる事も増え、徐々にであるが浸透している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	単独開催ではなく隣接施設と合同で開催している。概ね2月に1度実施しており向上させてきている。	定期的に2か月に1回会議を開催し、会議前には自治会代表者と打ち合わせしている。2つの事業者と合同で会議を開催しているが、積極的な意見交換は少ないため毎回30分程度で終了している。	会議の様子が具体的に把握できるよう、会議録作成の工夫と、会議に家族らがメンバーとして参加することで意見・要望が出てサービス向上となるので、より双方向的な会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本庁とのパイプがあり必要時には、有意義な意見交換が行われている。	管理者が直接市役所に出向き、事業所の現状や感染対策等の情報を交換し、積極的に市からの助言や確認を求めている。また、市もそれに対して応えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は入居者と懸命に寄り添い、傾聴する事で身体拘束を防いでいる。	管理者が長年かけて職員と話した結果、どんなことがあっても拘束は行わない姿勢を強く職員らは持っている。利用者が不穏になった場合、その原因を探り利用者に寄り添い、傾聴を徹底し不安を取り除くケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や普段の日常生活でも話題に上がる為、共有出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた方が利用されていた事もあり、話し合いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、十分な説明をしている。場合によっては、面会時でも時間を作ってもらい話し合いをもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している他、面会時にも意見を聞く事もあり会議でも議題提起している。	意見箱を設置してあるものの、殆ど活用されていないが、面会時、気軽に職員に意見等を伝えられる機会を作っている。2か月に1回「ふるさと新聞」を発行し、家族に郵送しており、事業所の状況を理解してもらい、運営に反映出来るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は、家族の様に接している。が、意見し合いその都度解決している為、日々楽しく雰囲気も良い。	管理者は、利用者の状況を一番よく把握しているのは職員であると認識しており、現場の声を良く吸い上げている。意見・要望があったときは、「ふるさと会議」で話し合い、内容によっては管理者が直接本部に上申している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社側には、今のある現状を理解してもらい、状況に応じて改善も要求したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心となり、研修参加での向上は勿論だが、日々の生活からも意識を持って励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内々だけの事が多く、隣接施設や研修会等を通じて質の向上にも力を入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかな生活が出来る様、傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり説明し、不安や疑問に対応し、関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接施設と相談しながら家族に状況報告している。提携医に相談・助言を求める場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々になるべく合わせているが、難しい事柄も多くある。状況に応じ、的確に対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも面会時を通じて、職員と共に関係を、共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方が、面会に見えられた際は、昔話に花が咲く事もあり、大切な空間であると考えている。	友人の面会があった時は、会話が混乱なくできるよう職員が中に入って支援している。また入居前の担当者である介護支援専門員等から、生活状況等情報提供を受け、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話題を提供し盛り上げる時もあるが、その一方で一人の空間も大切と考えており、その時々々の状況や雰囲気も考慮し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡がある事は稀だが、その際は管理者が中心となり、相談・支援を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話題や環境状況も変えながら、職員同士話し合い、その時、よりベストな対応が出来る様に努めている。	利用者の思いを、コミュニケーションを取りながら丁寧に聞いている。利用者から毎日雑巾がけをしないと要望があり、腰に負担のかからない方法を一緒に検討した結果、モップがけが毎日の利用者の日課となった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活状況票等を活用し、入居後も、本人や家族からも聞き取りをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期のバイタルチェック以外でも、現状把握に目を配りながら、状態によっては、提携医に報告したり、救急要請している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回会議時に、意見を出し合い決定している。3ヶ月毎にケアプラン作成し、家族に説明し理解を得ている。	毎月1回のケアプラン、モニタリングの会議には全職員が参加している。モニタリングでは計画担当者が職員から情報収集し、3か月毎に計画の見直しをしている。どの職員も家族への計画書の説明が出来るよう把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3点セット(連絡ノート・受診ノート・介護記録)を活用しながら情報の共有を図り、問題点があれば、緊急性に限り、その日の職員同士で決定している事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、状況が変化する為、その時々々の対応を重視し、柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に考慮し、日々の生活が、有意義になるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医訪問は週1である。緊急時は管理者が、受診等の必要があれば、対応している。	事業所の提携医の受診と、以前からのかかりつけ医による受診と分けられ、どちらも利用者・家族の希望に沿った受診体制である。緊急時の受診も整っており、家族との情報伝達も的確にされており、安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設に看護師が居る為、助言や相談する場合もある。最終判断は管理者が行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、病院関係者や、施設関係者や、家族とも連携を取り、安心して治療が受けられる様関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期寸前まで対応したケースは何度もあるが、設備など不十分な体制もあり、状況に応じて今後対応していきたい。	管理者や職員は、事業所としての方針を示すことが重要であると、今までの経緯から共通認識できるようになった。その為早期から利用者・家族らと話あいの場を設け、方針を共有できるようになった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署からAED等の器具を借り、職員で勉強会を開催したり、事故対策マニュアルを作成し、役立てている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より年2回避難訓練実施している。その他でも、グループホーム独自の訓練にも力を入れている。今後も天候や入居者の状態も見ながら実施していく。	消防署との避難訓練が2回と、事業所独自の避難訓練は先月行われた。職員だけの誘導の限界や利用者の思わぬ行動らを考えると、具体的な想定から、具体的な避難誘導策を検討する必要がある。	夜間及び法人が休日を想定した訓練、連絡網や防災頭巾等の防災備品の確認、また訓練の頻度を多く実施する中で、職員の落ち着いた確実な避難誘導ができると期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、尊敬の念を持ちながら状況に応じては傷付けない様に、さりげなく注意もしている。	ケアは利用者の居室でおこなっており、交換した紙パンツ類は他の利用者に解からないように新聞紙に包んで処理している。居室に入る時は必ずノックをして、利用者の了解を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いは傾聴し希望に沿う方向でと考えているが、殆どの場合は、職員が決定しているのが現状である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。希望になるべく沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った服装や、季節に見合った衣類の着用を声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者には盛り付けを主にしている。日曜日には、デッキで食事される事もある。外の空気を吸えると好評である。	利用者が使用する茶碗・湯呑・箸は、本人の好みを聞いて購入し、献立や食材は業者委託であるが、職員が調理している。業者からの定期的なアンケートには利用者と一緒に要望等を記載している。また、テラスでの食事や外食も食事の楽しみとして取入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は職員だが、材料や献立は業者委託である為、栄養のバランスが良い。少量が多く感じるがしっかり摂取される方が多い。食事摂取一覧表を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア支援、就寝前の義歯をコップに入れる、日曜日の午後にはポリデント洗浄し、口腔内清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあり、近い為安心感がある。清掃も毎日している。定期的に誘導支援もしている。	声かけや一部介助の利用者が多く、全介助は2名であるが、居室にトイレがあるため、さりげなく排泄誘導ができる環境になっている。利用者の個々の排泄パターンや行動、表情等を観察して排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消体操や散歩を取り入れている。場合によっては医師に相談する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	榊原温泉の湯を使用し大浴場の為好評である。午後からゆったり入浴できる。湯の入れ替えは週2回、毎日夜中に巡回している。	週2回午後から榊原温泉の湯が入っている大浴場を利用している。利用者にとって温泉のお風呂は楽しみであり、ゆっくり入浴している。介護度4の利用者も大浴場で職員二人の介助で入浴しており、状態に合わせて個々の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて、気持ち良く睡眠が取れるよう支援している。昼寝も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに投薬一覧表が作成しており、いつでもチェックが出来る。症状の変化に対しても、すぐ医師に相談出来る体制はある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業(洗濯や掃除)、読書や掲示版見物など狭い空間にぎっしりと詰まっている。朝はホールにある職員手作りの神社でお参りされる方が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ・外食・買い物等行っている。楽しみにされている方が多い。今出来る事を考え支援している。	戸外に出て、日光浴や気分転換が出来る機会を多く作っている。事業所周辺は交通量も少なく、森林浴が楽しめる散歩道となっており、よく利用している。他に利用者全員で行く買い物や、家族と一緒に外出する利用者もみえ、希望を聞き支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に管理は金庫に入れ、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては精神的観点から支援には消極的である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やホールには、季節ごとの写真や飾り物があり四季が感じられる空間になっている。東日本の地震以降、日中はなるべく節電している。現在も継続中である。	共有空間は比較的狭いが、曜日によっては階下のホールやテラスを利用している。食堂や廊下には利用者の好みの写真や飾りつけがされている。壁や柱等は檜を使っており、明るく和らいだ雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間は狭く、広々とくつろげる環境でないのが寂しいが、出来る範囲で工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、昔から使用していた物を持参してもらっている。荷物は少なくシンプルな部屋が多い。	檜をふんだんに使っており、ロッカーや棚、洗面所、トイレが備付となっているため、最低限の家具を家族が揃えている。また居室から直接バルコニーに自由に入出りでき、景色が眺められ明るい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	空間が狭く感じる中、その中でうまくいく様に、雰囲気作りを大切に、職員が工夫している。		